


# 審査結果報告書

2022年2月2日

主査氏名 守屋 達美 

副査氏名 石井 直仁 

副査氏名 狩野 有作 

副査氏名 高田 一成 

1. 申請者氏名 : DM18008 鎌田 芙美

2. 論文テーマ :  
ポドサイト障害と糸球体周囲線維化との関連性について

3. 論文審査結果 :

2022年2月2日(水)16時から、上記の主査1名、副査3名により、北里大学医療系研究科博士課程の学位審査を行なった。申請者が述べたように、様々な腎疾患における予後(主には腎機能低下)を予測することは極めて重要である。しかし、腎疾患の確定診断として行われる経皮的腎生検により得られた様々な組織学的変化から腎機能予後を推定する検討は過去に十分なされていない。本対象論文は、糸球体上皮細胞障害の代表疾患である微小変化型ネフローゼ症候群(MCNS)55例と巣状糸球体硬化症(FSGS)28例を対象とし、著者が属するグループが以前検討した糸球体周囲線維化と他の組織所見との比較検討、上記2疾患の経時的な腎機能変化との関連、そして人工透析導入をアウトカムとした腎組織変化の予後予測因子としての意義を示したものである。糸球体周囲線維化に加え、糸球体硬化病変、間質変化などの組織所見の腎組織における定量化は、多大な労力を必要とするが、申請者が上記例数の腎組織においてそれを遂行したことは研究能力の高さを示すものである。一方、臨床的にはMCNSは腎機能が低下することはないが、FSGS患者には少なからず腎機能低下が見られ、その予後予測は非常に重要な事項である。その点に関連して、本検討において特にFSGSにおける腎機能低下および腎アウトカムに関して糸球体周囲線維化が有意に関与することを示したことは、新規性があり、非常に高く評価されるべきものである。

筆者の発表は極めて明快で、質疑応答においても適切な回答が得られ、研究のlimitationもきちんと理解しており、今後の研究生活の期待を大きく持つものであった。

上記により、審査委員会は、本論文が北里大学医療系研究科博士課程の学位論文として十分な意義を有するものであり、申請者が医学博士の学位を授与されるのに十分な資格を有するものと判断した。